

第 10 回 西日本インカレ（合同研究会）専用企画シート

必ず「企画シート作成上の注意」をご確認いただき、ご記入をお願いいたします。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
リュウコクダイガク	ケイエイガクブ	クワツカゼミ
龍谷大学	経営学部	鋤塚ゼミ

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）
クワチャンズファイブ	オオシマナオヤ	5 人
くわちゃんず 5	大島尚也	

研究テーマ（発表タイトル）

観光地の衰退と発生～マストゥリズム地域資源を活かした体験型観光へ～

1. 研究概要（目的・狙いなど）

現代の観光産業が観光客の傾向の変化からどのように遷移したかをマストゥリズムとニュートゥリズムの視点から調査し地域資源を活かして観光業が再生する方法を提示します。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

観光業の形態の推移はマストゥリズムからニュートゥリズムになっています。高度経済成長期からバブル期に急成長したマストゥリズムはバブル崩壊と OTA(オンライントラベルエージェント)の存在で衰退し、現代は個人旅行が主力のニュートゥリズムに移行しています。

3. 研究テーマの課題

マストゥリズムに依存していた地方の観光地はニュートゥリズムの需要に応えられず衰退してしまっています。そこでニュートゥリズムに対応するための方法を地域資源を活かした体験型観光という視点から提示します。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

上記のようにマストツーリズム向けで衰退してしまった観光地は地方自治体、地方事業者、地元の人々と協力して地域資源を活かした体験型観光を売り出していく必要があります

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

有馬温泉にてアンケート調査

6. 結果や今後の取り組み

観光者のニーズが体験型観光に移行していることが裏付けられるデータを集められた。

また 100 名以上の調査で全ての観光客が個人旅行で訪れていてマストツーリズムの衰退も裏付けられた。

7. 参考文献

- JTB 総合研究所 観光用語集
<https://www.tourism.jp/tourism-database/glossary/>
- 手島 康幸（2008）「マストツーリズムの歴史的変遷と今後の行方」日本国際観光学会、日本国際観光学会論文集
http://www.jafit.jp/thesis/report/15_2008.html
- トラベルボイス「1980 年代に海外旅行が急拡大した理由」
<https://www.travelvoice.jp/20141111-27393>
- 高橋 一夫（2017）「観光産業のモデルビジネスの変化について」アド・スタディーズ
<http://www.yhmf.jp/activity/adstudies/59.html>
- 観光動態の変化の状況 国土交通省 観光庁
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kanko_vision/kankotf_dai16/sankou.pdf
- 勝山 裕太、遠藤 玲（2008）「温泉観光地・熱海の活性化について-イメージと課題-」土木学会
<http://library.jsce.or.jp/jsce/open/00061/2008/35-04-0100.pdf>
- 一般財団法人 自治体国際化協会 経済活動 <http://economy.clair.or.jp/casestudy/inbound/658/>
- 鹿島酒蔵ツーリズム®推進協議会 鹿島酒蔵ツーリズム <http://sakagura-tourism.com/>
- 小坂町 公式ホームページ
<https://www.town.kosaka.akita.jp/index.html>
- 小坂町レールパーク
<http://kosaka-rp.com/>
- あきたエコタウンセンター
<http://www.akita-ecotown.com/>
- 一般財団法人 秋田経済研究所
http://www.akitakeizai.or.jp/journal/201602_zuisou.html
- 金沢市観光協会、金沢市観光公式サイト金沢旅物語
<https://www.kanazawa-kankoukyoukai.or.jp/>

●パワーポイント内に動画を使用されている場合、動画を使用しているスライドのページをご記入ください。

●発表時に使用する成果物（例．商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査に使用したアンケート）

【企画シート作成上の注意】※「第 10 回 西日本インカレ（合同研究会）大会参加要項」も合わせてご確認のうえ、企画シートの作成を行ってください。

- ・本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。
- ・本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、翌年 3 月に公開予定の「日経ビジネス電子版」にリンクされた特設サイトに掲載されます。
- ・本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ・本企画シートは、作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。
- ・大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ・商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。
- ・書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ・発表時に使用する成果物がありましたらご記入ください。記入がない成果物は大会当日使用することができません。また記入いただいた内容について、事務局から代表者の方に確認をさせていただく場合がございます。
- ・電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

↑ここまでを 4 ページ以内に収めて、提出してください